

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-250	高等学校	外国語	論理・表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	論 I ・ 712	BIG DIPPER English Logic and Expression I		

1. 編修の基本方針

編修の基本方針として、学習者の生活に即した題材を用いて、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの3つの領域の言語活動を通じ、英語による**基礎的かつ実践的な発信技能**を習得させること、またそれによって、**論理の構成や展開を工夫して、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う**ことが可能となるよう留意した。

1. 題材は、学習者に親しみやすく、かつ学習者の**生きる力を育成**する内容豊かなものを採用した。
2. 言語材料に関しては、中学校との連携を考慮して**基本事項の定着**を重視するとともに、その基礎を活用して**論理的な英語表現の能力を伸ばす**ことが可能となるよう選定した。
3. 「書く」「話す」の**生産的 2 技能**を中心に育成する目的において、「読む」「聞く」の**受容的 2 技能**とも有機的に関連させる演習を随所に設け、学習者が**幅広い言語活動**に取り組むことができ、かつ**積極的に授業に参加**できるように配慮した。

上述した内容・構成によって、学習者が**多様な知識と教養**を身につけ、積極的に**社会の形成に参画**し、自他国の伝統・文化を尊重しつつ**国際社会の平和と発展**に寄与する態度を養うことが達成できる教科書となるように編修した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
見返し Classroom English	<p>教室で用いる基礎的な英語表現を身につけさせる。(第1号)</p> <p>相互の意見や関係性を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(第3号)</p> <p>平等意識や公平の観念を養うため、男女・人種などにおいて、偏りが生じないように配慮した。(第3号)</p>	<p>前見返し I ・ II 後見返し IV ・ V</p> <p>写真全般</p>

<p>PART 1 Building a Basis for Logical Expression</p>	<p>英語で表現するための基本的かつ幅広い知識を確実に身に付ける。(第1号)</p> <p>自己表現活動を通じて、創造性・自主性を養う。(第2号)</p> <p>平等意識や公平の観念を養うため、男女・人種などにおいて、偏りが生じないように配慮した。(第3号)</p> <p>日本語と英語の表現形式の差異を通じて、双方の持つ言語的な文化への理解を深める。(第5号)</p> <p>コミュニケーション・ツールとしての英語の重要性を再認識させる。(第5号)</p> <p>日本と他国を比較することで、その文化などに対する理解や互いを尊重する態度を養う。(第5号)</p>	<p>5~66 ページ</p> <p>Think and Express! (15,17 ページほか)</p> <p>Interact and Produce (15,17 ページほか)</p> <p>Express It Logically (32,33 ページほか)</p> <p>写真・イラスト全般</p> <p>はじめに (6~11 ページ)</p> <p>45 ページ 1~4 行</p> <p>57 ページ 23~25 行</p>
<p>付表 Words & Phrases</p>	<p>身の回りの事柄に関する語彙を増やし、さまざまな話題について英語で表現する能力を養う。(第1号)</p> <p>環境問題に関する語彙を習得させることで、当該の問題に関する意識を高める。(第4号)</p>	<p>67~72 ページ</p> <p>72 ページ</p>
<p>PART 2 Communicative Functions for Logical Expression</p>	<p>言語の働き(機能)を念頭におき、様々な場面で相手の存在を意識して、より効果的なコミュニケーションを図る力を培う。(第1号)</p> <p>発展的な表現活動を行うことにより、自律性を培う。(第2号)</p> <p>対話において、自他の敬愛と協力を重んじる場面を多く設けた。(第3号)</p> <p>家庭内の労働も含め、社会への参画を意識させる題材を採用した。(第3号)</p> <p>平等意識や公平の観念を養うため、男女・人種などにおいて、偏りが生じないように配慮した。(第3号)</p> <p>環境に優しい町の取り組みや資源の節約を主題にした教材により、環境保全に寄与する姿勢を養う。(第4号)</p> <p>自分の町を紹介する活動を通じて、自己を育ててくれた社会に対する認識を深める。(第5号)</p> <p>日本と他国、自分と他国の人々との関わりにおいて、国際社会の一員である自覚を促す。(第5号)</p>	<p>73~121 ページ</p> <p>Further Activities (75,77 ページほか)</p> <p>Express It Logically (84,85 ページほか)</p> <p>Dialog (75,77 ページほか) Expressions (74,76 ページほか)</p> <p>86~87, 102~103, 114~115 ページ</p> <p>写真・イラスト全般</p> <p>96~97, 112~113 ページ</p> <p>97 ページ 27~29 行</p> <p>98~101, 118~119 ページ</p>
<p>後付 Useful Expressions</p>	<p>英語で表現するための基本的な知識を、反復練習により定着させる。(第1号)</p>	<p>122~128 ページ</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

I. 教科書の特徴

A. 学習しやすい パート別 / 見開き 2 ページ 構成

1. パート別構成

PART 1 で「論理的表現の基礎」を、PART 2 で「言語の働き〔機能〕」* を習得します。いずれも表現活動に繋げる点を重視した構成となっています。

* 「言語の働き〔機能〕」とは、「勧誘する」「依頼する」などのことばの働きのことで、これを理解することで、自分が伝えたい内容を的確に表現することが可能となります。例えば、Can you play the violin?〔質問〕 / Can you lend me your bike?〔依頼〕のように、同じ“Can you ~?” という疑問文でも「言語の働き」は異なります。

2. 見開き 2 ページ構成

見開き 2 ページの小ユニットで 1 レッスンが完結するので、テンポよく学習を進めることができます。各レッスン内で、INPUT（簡明な解説・用例）～INTAKE（基礎的な表現練習）～OUTPUT（自己表現活動）の流れをもった、豊富な学習内容を扱っています。

B. 理解しやすい パラグラフ・ライティング などの解説 <Express It Logically>

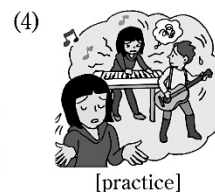
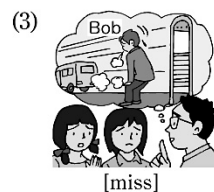
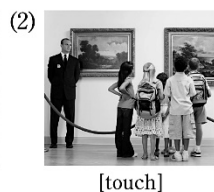
パラグラフ・ライティング、プレゼンテーションといった、比較的高度な言語活動も、各パートの Express It Logically において無理なく学習することができます。

II. 各課の構成

A. 正課：表現の習得・練習と自己表現活動がバランスよくできる内容としました。

1. PART 1：英語で論理的に表現するための基礎の習得に主眼を置きました。

- a) 左ページ：各課で学習すべきポイントを含む用例に簡単な解説を加え、確認のための表現練習を設けました。使用する場面や伝えようとする内容と関連づけて、基礎表現を実際に活用させることを重視しました。
- b) 右ページ：学習事項をさらに活用・定着させる練習問題を掲載しました。下のような絵や写真〔状況〕を見て表現する問題と、自分の行動や考えなどを表現する活動、ペアワーク・グループワークで「やり取り・発表」を行う活動など、多彩な演習を取り入れています。



- (1) We _____ . The meeting will begin soon.
(2) You _____ the museum exhibits.
(3) Bob hasn't arrived yet. _____ the bus.
(4) _____ more before the concert.

〔図などは実際にはカラー印刷となります（以下同）〕

★PART 1 の L.1～3 は「はじめに」として、英語と日本語の表現の違いなど、「基礎の基礎」を学ぶレッスンになっています。L.1「英文での主語の明示」〔下例〕、L.2「動詞の意味（日本語との対応）」、L.3「基本的な名詞・冠詞の用法」などを扱っています。

A

「かぎを落としましたよ」

You dropped the key.

POINT

日本語では、主語（「～は」、「～が」にあたる語）が省略されることがよくあるので、それを補って考えるようにしましょう。

- | | |
|-------------------|---|
| ① 昨日この本を買いました。 | I bought this book yesterday. |
| ② カーター先生に会いましたか。 | Did <u>you</u> meet Ms. Carter? |
| ③ この花を英語で何と言いますか。 | What do <u>you</u> call this flower in English? |
| ④ 当店では時計を売っています。 | <u>We</u> sell watches and clocks here. |

2. PART 2：言語の働き（機能）を意識した、より効果的なコミュニケーションを図る力を育成することに重点を置きました。

- a) 左ページ：学習内容についてリスニング＋ライティング問題によって導入し、各課で学ぶべき機能的な表現をペアワークによって定着させます。
- b) 右ページ：機能表現を含む Dialog によりディクテーション・ロールプレイングを行い、要約練習としてのリテリングを経た後に、Further Activities（下記）でやや発展的なコミュニケーション活動を行います。各課の終わりには、題材に関連するディスカッション・ディベートの設問も用意されています。

Look at the pictures and make dialogs in pairs.

Situation Two students are talking about the menu of the school cafeteria.



kitsune udon ¥300



a hamburger steak set ¥450



spaghetti with meat sauce ¥420

- Ex.) A: What do you suggest?
 B: How about ① the fried chicken set?
 ② It's delicious and filling.
 A: OK, I'll try it. How much is it?
 B: It's ③ 400 yen.

Hint ① お勧めの品
 ② 勧める理由など：come right away 「すぐに出てくる」、healthy 「健康的である」、well-balanced 「栄養バランスがよい」
 ③ 値段：inexpensive 「手ごろな値段の」などを述べてみよう。

B. 正課以外：Express It Logically など

- 概ね本課 4 レッスンごとに、Express It Logically という課を設けました。PART 1 では文章（パラグラフ）作成、PART 2 では発表（プレゼンテーション）といった、比較的高度な言語活動について、論理的な構成などの留意点をまとめました。
- PART 2 では、概ね 4 課ごとに、Discussion/Debate のヒントや、Writing (email などの自由英作文) といった、学習内容を深化させるページを用意しています。
- 前後見返しでは“Classroom English”として、授業での使用が想定される基本的な英語表現をまとめました。また、各課の問題演習に関しては、できる限り指示文を英語で表記しています。これらにより、英語による授業が進めやすくなるよう工夫しました。

◆教材配当表 <B5判・128ページ・4色>

PART 1：基礎的表現の習得

PART 2：機能表現の習得

課	タイトル	学習事項	課	タイトル	学習事項
1	はじめに①	「だれが」「～する」をはっきりと	1	School Life	勧誘する, 提案する
2	はじめに②	動詞をうまく使おう	2	School Subjects	依頼する, 理由を聞く・述べる
3	はじめに③	名詞の数などに気をつけよう	3	Free Time	確認する, 訂正する
4	My Friends	～である [ない] ～ですか [しますか]	4	Feeling Well?	心配する, 助言する
5	My Family	～する [している] ～した [していた]	EL 5	情報・考えをまとめてみよう!	
6	Pastime	未来で行うことの表現	5	Housework	義務・必要を述べる
7	My Town	完了・継続・経験の表現	6	The Internet Is Fun	期待・確信を述べる
C	辞書を活用しよう!		7	I've Lost Your Book	謝罪する, 謝罪に応じる
8	Our Teachers	能力・許可・推量 など	8	Planning a Trip	計画する, 予定する
9	Visiting a Museum	必要・義務, 過去についての推量・後悔 など	EL 6	発表の仕方や表現を工夫しよう!	
10	Famous People	～は…になる/～に…を与える/～を…にする など	9	Experiences Abroad	感想を尋ねる・述べる
11	Reading	～される [されない] ～に満足している など	10	Exchange Students	程度・結果を述べる
EL 1	短い文章を書いてみよう!		11	I Want to Be a ...	願望・目的を述べる
12	Studying Abroad	～すること/～すべき… ～する方法 など	12	Cheer Up Your Friend	同情する, 励ます
13	Advice	～するために/～するように頼む/～するのを見る など	EL 7	情報・考えを整理して発表しよう!	
14	Hobbies	～すること など	13	Farewell Party	感謝する, 喜ぶ
15	My Vacation	～している [された] …/～しているのを見る など	14	Saving Resources	賛成する, 反対する
EL 2	文のつながりを示す語句を使おう①		15	Social Problems	意見を尋ねる・述べる
16	In a Zoo	同じくらい～ より～ など	EL 8	発表を聞いて, 自分の考えをまとめてみよう!	
17	Our Team	最も~/2倍の~/できるだけ～ など	EL 9	競技ディベートを行ってみよう!	
18	Neighbors	～する人・物/…が～する人・物 など	* C…Column / EL…Express It Logically * 二次元コードにより, 各課 Review Exercises, 語彙問題 [p.22], 文法のまとめ [p.122] を参考情報として提供. * その他, 授業での発話集 Classroom English [前・後見返し], 不規則動詞活用表 [p.12], 活動評価のルーブリック [p.13], Words & Phrases [pp.67-72], 主要表現まとめ Useful Expressions [pp.122-128] を収録.		
19	Speeches	…が～すること/…が～する場所 [時] など			
EL 3	文のつながりを示す語句を使おう②				
20	My Wish	事実と異なる状況の表現			
21	A Birthday Gift	名詞に相当する節 時・理由・条件の表現			
EL 4	書いた内容を読み返し, 書き直そう				

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-250	高等学校	外国語	論理・表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	論 I・712	BIG DIPPER English Logic and Expression I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

I. 全般的な留意点

- A. 題材は、学習者の人間として調和のとれた成育に寄与するもので、学習者の実生活に即応したバラエティに富んだ内容（言語材料、言語使用の状況など）を取り揃えた。
- B. 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図る態度を育成するため、問題演習の指示文は極力英語を用いた。また、表現活動を行いやすいように、具体的な指示・モデルパターンなどの支援を比較的多く与えた。
- C. 論理的な意見構築や文章構成の基礎となる論理的に正しい文・機能表現の習得が、使用場面や伝達内容を重視した豊富な演習を通じて、確実に行える内容を心がけた。
- D. 事実や意見などについて多様な観点からの考察や表現上の工夫がなされるように、学習者間の相互交流を意識した言語活動を多く設け、学習者が主体的・自律的に授業に関与することが可能な構成とした。

II. 教科書の構成 ※教科書の概要は「編修趣意書（教育基本法との対照表）」をご参照ください。

A. PART 1 : Building a Basis for Logical Expression

Lesson 9 Visiting a Museum

B.E. 11 「～するとよい」「～しなければならない」

① You should go to this exhibition. ▶ この展覧会に行くといひよ。
 ② You must see these pictures. ▶ これらの絵は見ておかないといひないよ。

POINT 「～するとよい、～すべきである」は should を、「～しなければならない」は must を用いて表します。must のほうが、should よりも意味が強くなります。
 ▶ 「～しなければならない」は (have to) を用いて表すこともできます。
 ▶ We had to visit him yesterday. (過去を表す場合は×must)
 ▶ must not [mustn't] は「～してはいいけない」(禁止)。(do not [don't] have to) は「～しなくてもよい」(不必要の意味)になります。

Let's Use It! ① *上で学んだ表現を使ってみよう。
 (1) ある映画を見るように ① 動めるとき ② 強く動めるとき
 The movie is great. ① You _____ . ② You _____ .
 (2) 生徒が職員室への入室を禁止されているとき
 Students _____ the staff room this week.

B.E. 12 「～だったにちがいない」「～すべきだったの」に
 ③ Tom may have arrived there early. ▶ トムはそこに早く着いたのかもしれない。
 ④ He must have enjoyed the exhibition. ▶ 彼はその展覧会を楽しんだにちがいない。
 ⑤ We should have visited it last week. ▶ 私たちは先週そこを訪ねるべきだった。

POINT 過去のことについて、「～だったにちがいない/かもしれない」と推察する場合は (must/may) have + 過去分詞) で表します。また、(should + have + 過去分詞) は、「～すべきだったのに」と過去のことについての後悔などを表します。
 ▶ Sam was with us last night, so you can't have seen him at the station. (～したはずがない)

Let's Use It! ① *上で学んだ表現を使ってみよう。
 (1) Saya looked sick yesterday. She _____ a fever. (～したかもしれない)
 (2) The drama was exciting. You _____ it. (～すべきだったのに)
 (3) Jim didn't answer the phone. He _____ sleeping. (～していたにちがいない)

Think and Express!

② Look at the pictures and complete the sentences. Use the words below.
 [(1) (2) → (3) (4), (3) (4) → (1) (2)]
 *[(1) (2) should, must, have to, (3) (4) (may/must, should)+have+過去分詞)を使ってみよう。]

(1) (hurry) (2) (look) (3) (miss) (4) (practice)

(1) We _____ . The meeting will begin soon.
 (2) You _____ the museum exhibits.
 (3) Bob hasn't arrived yet. _____ the bus.
 (4) _____ more before the concert.

③ Express yourself! ▶ Tell what happened and give your conclusion.
 Ex.) John said he wanted to read the magazine, so he *may have bought* a copy. She had walked about five kilometers, so she *must have been* very tired. I had a very bad score on the exam. *I should have studied* harder.

Interact and Produce

④ Listen to the dialog between Lily and Takumi. Write down some key words.

⑤ Work in pairs. Refer to ④ and reproduce the dialog.
 Lily: _____ to Ueno Zoo?
 Takumi: No, _____ there.
 L: It's great. You _____ .
 T: _____ in the zoo do you like best?
 L: I love the pandas. You _____ . They are so cute.
 T: Pandas? I've always _____ !

⑥ Work in groups.
 a) Students A and B will make a dialog of their own similar to the one in ⑤ and present it to students C and D.
 b) C and D will ask questions or make comments about the dialog. (Then switch roles.)

Part 1 27

① 基本例文・POINT <INPUT>

各課で学ぶべきポイントを含んだ基本的な例文に、簡単な解説を添えています。基本例文には各課で緩やかなストーリー性をもたせています。

② Let's Use It! <INTAKE・OUTPUT>

各々のポイントに関して、コミュニケーションの場面・状況を意識した問題演習で、確認・定着を促しつつ自己表現練習を行います。

③ Think and Express! <INTAKE・OUTPUT>

各課の学習ポイントを活用して、図絵の内容を思考・判断して描写したり、自分の行動や考えなどを表現したりする練習です。

④ Interact and Produce <OUTPUT>

対話文・スピーチなどの内容を聞き取る練習（リスニング）と、それを参考にして、ペアワーク・グループワークで発表・やり取りの活動を行います。

B. PART 2 : Communicative Functions for Logical Expression

Lesson
5
Housework

Can-do! 英語で義務・必要を述べることができる。 家事について英語で表現できる。

③

Dialog Jack is talking to Rina in their classroom.

⑦ Listen to the dialog and fill in the blanks.
Then play the roles of Jack and Rina in pairs.

J: In Japan, I don't () () do housework. My () parents do everything for me, but actually, I'd like to help out around the house.

R: In New Zealand, were you expected to help with the housework?

J: Yes. I was () to help with the dishes, the laundry, the grocery shopping, and () ().

R: I think you () to talk to your host parents.

I'm sure they'll () your help if you ask them.

J: You're probably (). I'll talk to them.

④

Retelling Summarize the dialog.

Jack would like to . In New Zealand, he was expected to . Rina thinks that he needs to and then they will .

⑤

Further Activities

① How often do you do the household chores listed in the table below? Write the following marks in the second column. [always:●, often:○, sometimes:△, rarely:▲, never:×]

② Ask your friends about the same matter and fill in the rest of the table. Ex.) How often do you vacuum the floor? — I do it very often.

Household Chores	① You		② Your Friends		
	Name	Name	Name	Name	Name
① vacuum the floor					
② do the laundry					
③ cook meals					
④ do the dishes					
⑤ take out the garbage					

▶ Discussion 4 Talk about sharing household chores. (Hint→p.94)
※ Words & Phrases p.68 (家事) (住まい)

① Listen and Answer <WARM-UP>

各課で学習する内容（話題）の導入となる簡単なリスニング問題です。対話文などの要点を書きとる「リスニング+ライティング」の融合問題となっています。

② Expressions <INPUT・INTAKE>

機能や場面に応じた表現をモデル文（対話文）により習得し、それを応用する練習です。

③ Dialog <INTAKE>

ディクテーションによって、各課で学ぶポイントや、その他の重要表現・語彙を定着させます。また、ロールプレイングによって、コミュニケーションを図る場合の発声練習を行います。

④ Retelling <OUTPUT>

Dialog の内容を第三者に伝えるように工夫してまとめる練習です。

⑤ Further Activities <OUTPUT>

各課で学習した表現や話題に関して、応用的な言語活動により、実生活での活用事例につなげていき、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養います。

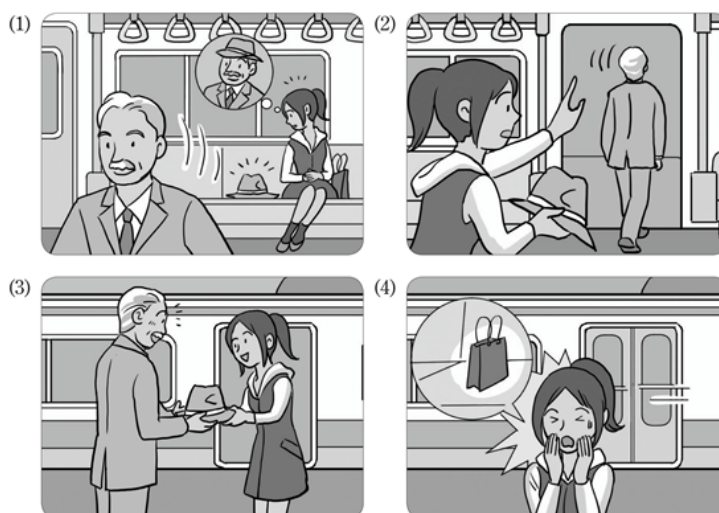
C. Express It Logically : 各 PART の概ね本課 4 レッスンごとに、以下の内容を設けています。

1. パラグラフ・ライティング [PART 1]

パラグラフの構造や展開など、論理的な文章の構築を習得するレッスンです。

※図絵を描写する問題〔下記〕など、学習内容を活用する activity を充実させています。

- 2 Tell your partner the story shown in the following pictures. Use words showing time order. [→ ④]



2. プレゼンテーション [PART 2]

プレゼンテーションの準備・展開・聞き方などを学びます。

1 時間の流れに沿って、内容を整理しよう

人物や出来事の紹介などは、時間の流れに沿ってまとめると理解しやすくなります。例えば、あるスポーツ選手について述べたい場合、次のように年代を追って整理し、スライドで年表などの資料を示すとよいでしょう。

Alex Minton was a great pitcher. He joined the Condors in 1990. He set a record by having 15 or more wins every year for 11 years. In 2002, he underwent an operation on his right elbow and had no chance to play. However, he made a comeback in 2003 and won 14 games. He finally retired after the 2006 season with a record of 5-4 that year.



▼ Professional Career of Alex Minton

Year	Win	Loss	SO	ERA
'90	15	8	232	2.87
'91	18	5	251	3.06
'92	20	7	255	2.64
'93	19	8	270	2.98
'94	16	10	228	3.43
'95	21	6	275	2.57

D. その他 :

1. PART 2 の概ね 4 課ごとに、各課のトピックに関連した Discussion/Debate のヒントとなる発話例を掲載しています。また、email や手紙などを題材に、30～50 語のまとまった文章を書かせる練習を行います〔下記〕。

① School Life [→L. 1]

→ Words & Phrases p.67(学校行事)

- ▶ Write an email to invite a foreign student to an event such as Field Day or the School Festival. (体育祭や文化祭などの行事を見に来るように、留学生を誘う Eメールを書いてみよう。)

Ex.) To: Paul
Subject: We have Field Day next Sunday. (Kana)

Hello, Paul. How are you? My school is going to have Field Day next Sunday. We always have many kinds of races, and they are a lot of fun to watch. Would you like to come? I'm sure you will enjoy it!

Kana

2. 学習者間での活動の評価のため、ルーブリックの例を p.13 に掲載しました〔下記 (一部)〕。

課 題	A(3点)	B(2点)	C(1点)
Pronunciation (発音)	聞き取りやすく滑らかな発音で話している。	おおむね理解できる発音で話している (発音の誤りなどが少しある)。	発音の誤りなどが多く聞き取りにくい。

2. 対照表

図書の内容・構成	学習指導要領の内容	箇所	配当 時数
見返し Classroom English	内容 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項	前見返し I・II 後見返し IV・V	—
PART 1 Building a Basis for Logical Expression	内容 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 (3) ① 言語活動に関する事項 ア 話すこと [やり取り] イ 話すこと [発表] ウ 書くこと ② 言語の働きに関する事項 内容の取扱い コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図るように指導するものとする。	内容 (1) Express Yourself! (6,7 ページほか) Let's Use It! (14,16 ページほか) Express It Logically (32～35 ページほか) (2) Think and Express! (15,17 ページほか) Interact and Produce (15,17 ページほか) Express It Logically (32～35 ページほか) (3) ① Express Yourself! (6,7 ページほか) Let's Use It! (14,16 ページほか) Think and Express! (15,17 ページほか) Interact and Produce (15,17 ページほか) Express It Logically (32～35 ページほか) ② Think and Express! (15,17 ページほか) Interact and Produce (15,17 ページほか) Express It Logically (32～35 ページほか) 内容の取扱い Express Yourself! (6,7 ページほか) Let's Use It! (14,16 ページほか) Think and Express! (15,17 ページほか) Interact and Produce (15,17 ページほか) Express It Logically (32～35 ページほか)	36

付表 Words & Phrases	内容 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項	67～72 ページ	—
PART 2 Communicative Functions for Logical Expression	内容 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 (3) ① 言語活動に関する事項 ア 話すこと [やり取り] イ 話すこと [発表] ウ 書くこと ② 言語の働きに関する事項 内容の取扱い コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図るように指導するものとする。	内容 (1) Expressions (74,76 ページほか) Let's write more! (83,95 ページほか) Express It Logically (84～85 ページほか) (2) Listen and Answer (74,76 ページほか) Dialog・Retelling (75,77 ページほか) Further Activities (75,77 ページほか) Express It Logically (84～85 ページほか) (3) ① Dialog・Retelling (75,77 ページほか) Further Activities (75,77 ページほか) Discussion (75,77 ページほか) Debate (79,89 ページほか) Let's write more! (83,95 ページほか) Express It Logically (84～85 ページほか) ② Expressions (74,76 ページほか) 内容の取扱い Expressions (74,76 ページほか) Further Activities (75,77 ページほか) Express It Logically (84～85 ページほか)	32
後付 Useful Expressions	内容 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 (3) ② 言語の働きに関する事項	122～128 ページ	2
計			70

※配当時間は、各レッスン等に1時間割り当てるものとして計算（考査・発表等含む）。